

〔第185回明専塾（ゼネコン）〕

人々の生活を支える仕事

工学部建設社会工学科4年 廣中 雄太



令和元年12月20日、戸畑キャンパスにおいて第185回明専塾が開催されました。講演内容はゼネコンの仕事に関するもので、陶山正治氏、松田直樹氏、木村拓磨氏、村上恒平氏の計4名の方々に講演をしていただきました。

ゼネコンとはゼネラルコントラクター（General Contractor）の略称で、工事を発注者から引き受け、建物が出来上がるまでの工事全体の取りまとめを行う会社のことです。

講演者の中に熊本地震で被災した橋梁の復旧に携わった方がいました。被災した橋梁は地域住民の方々の生活に必要不可欠で、早期復旧が急が

れており、その方は早期復旧のために1年4か月、昼夜を問わず仕事をしましたそうです。開通式には地域住民の方々から多大なる感謝をされ、当日はその橋梁を通るルートが渋滞するほど地域住民の方々が押し寄せたと聞きました。

この橋梁を復旧する際、以前までの性能を取り戻すだけでなく再度壊れることがないように補修工事を行っていきます。また、そのために様々な企業が努力を行っています。私は、「土木は人々のあたり前となるものを作り、注目されるときは悪い時ばかりである」ということを教授から教わり心に留めています。この講演会に参加するまでは、単純に縁の下力持ちのような仕事をするものだと考えていました。しかし、土木の仕事は多くの人の力が加わってこそ為せる仕事であるということに気づかされ、この言葉の重みを確認することができました。

これから、私も同じ土木の技術者として就職し社会へ貢献することになります。講演者の先輩方が代表するように地域住民の方々の生活の一部になれるような仕事をしていきたいと思っています。

鳳龍会館で行われた懇親会では、ご講演いただいた方々を含め、建設コンサルタントや公務員などの先輩方が20名ほど出席されていました。立食形式でお酒や食事が振舞われ、非常に和やかな雰囲気の中、各企業の仕事内容や就職するまでに勉強しておくべきことについてたくさんのお話を聞くことができました。その中でも強く印象に残ったことは、新聞や学会誌を読む習慣をつけるべきというお話でした。大事なポイントとして2点挙げていて、1点目は、これから仕事をしていくうえで最新の情報を得て業界の流れを把握する必要があるとのことでした。2点目は、最新のニュースを知っておくことでコミュニケーションをとるきっかけになるとのことでした。私がインターンシップに行った際に、インターンシップ先の方と専門的な話や時事の話をするが多く、分から

ないことがしばしばあったため、勉強のためだけに読むのではなくコミュニケーションのためと言われた際はハッとしました。その他にも、それぞれの企業のやりがいなどを聞くことができ、これからの仕事へのモチベーションが高まりました。

最後になりましたが、ご多忙の中私たち学生に講演していただいた方々、懇親会に集まっていたいただいた先輩方、また、このような貴重な機会を提供してくださった明専会や教職員の皆様にご心より感謝申し上げます。

（令和2年1月記）



懇親会の様子